



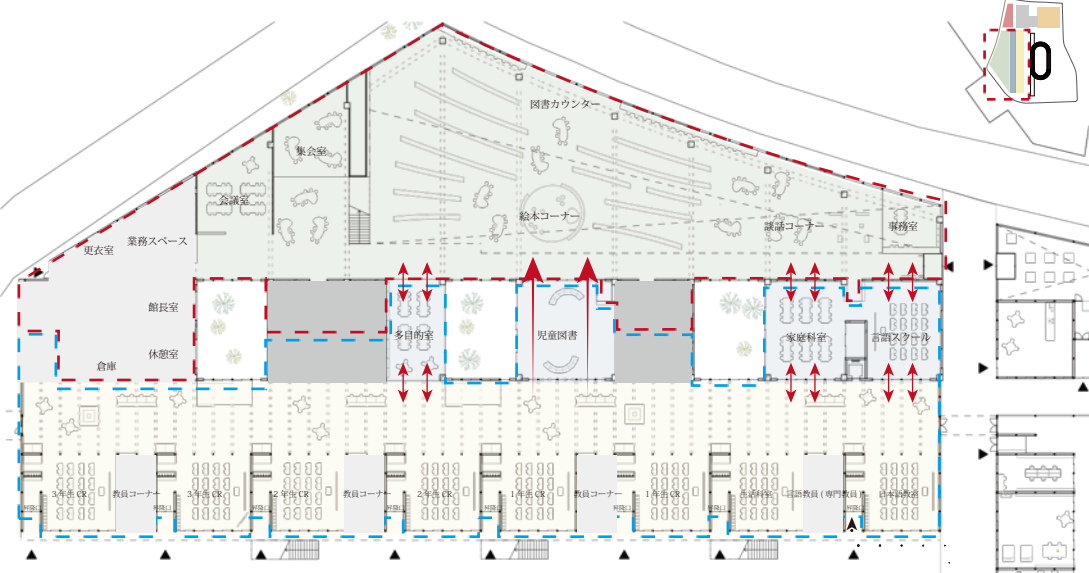
小学校と地域センターの複合による地域協働型小学校の計画

- 多国籍地域である横浜市泉区上飯田町を対象としたケーススタディ -

現在における地域開放のあり方は、学校として機能していない時間帯や子供や教師との関わりのないところで行われている。しかし、今後は教育内容と教育活動に必要な地域の人的・物的資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせることが重要であり、地域の居場所であると同時に、地域の文化教育を行う場が必要であるとする。

本計画においては、多国籍地域である横浜市泉区上飯田町を対象としたケーススタディとして、今までの単に地域の居場所提供としての地域開放ではなく、地域と協働して子供たちを教育していく新たな地域協働型小学校の姿を提案する。

5-2 プログラム間の行き来を可能とする履き替え動線計画



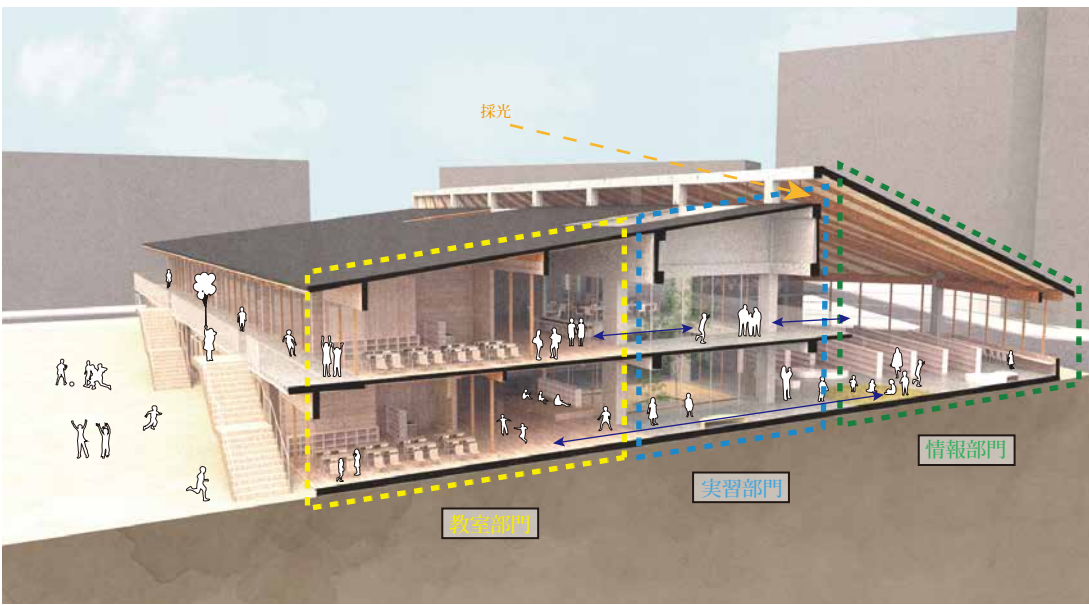
学習エリアは、実習部門を挟んで小学校教室と地域図書館がレイヤー状に重なっている構成となっている。履き替え動線として、図書館は土足利用、図書教室は上履き利用となっており、地域住人は図書教室利用者のみ履き替えを行う。児童は各教室に配置された昇降口からそれぞれの教室にアクセスし、地域図書館利用時には、下足に履き替えを行う。児童の利用頻度の高い児童向けの図書空間に関しては、上履き利用のままアクセスできる構成となっている。外国人の利用頻度の高い言語教室はエントランス近くに配置することで、下校時の児童や、カフェ利用者との視線的な繋がりを生む計画としている。

凡例

- 教室部門
- 実習部門
- 情報部門
- 上履きエリア
- 下足エリア

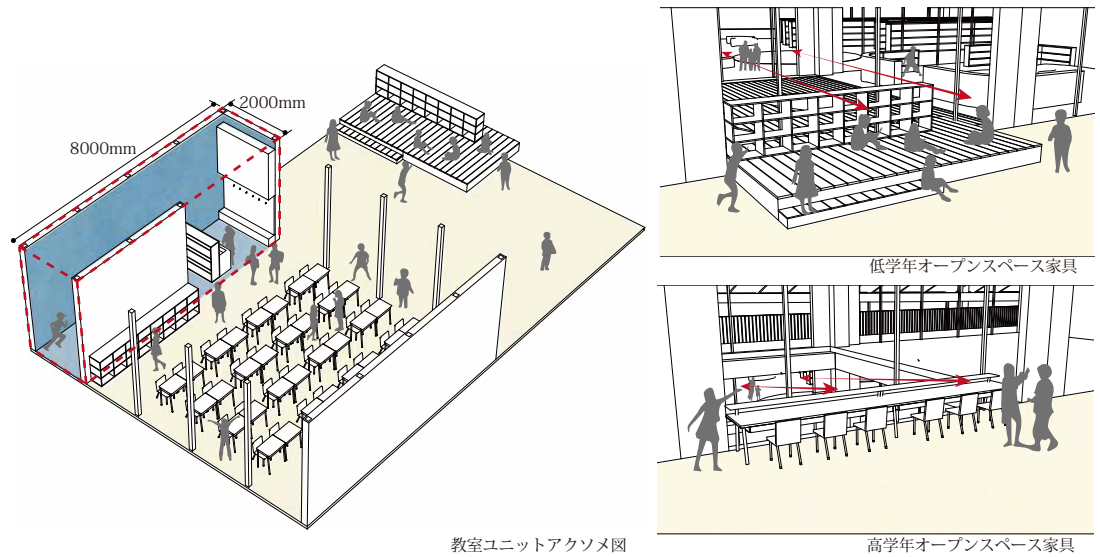
部分1階平面図

5-3 地域と小学生のに繋がりを持たせる断面構成



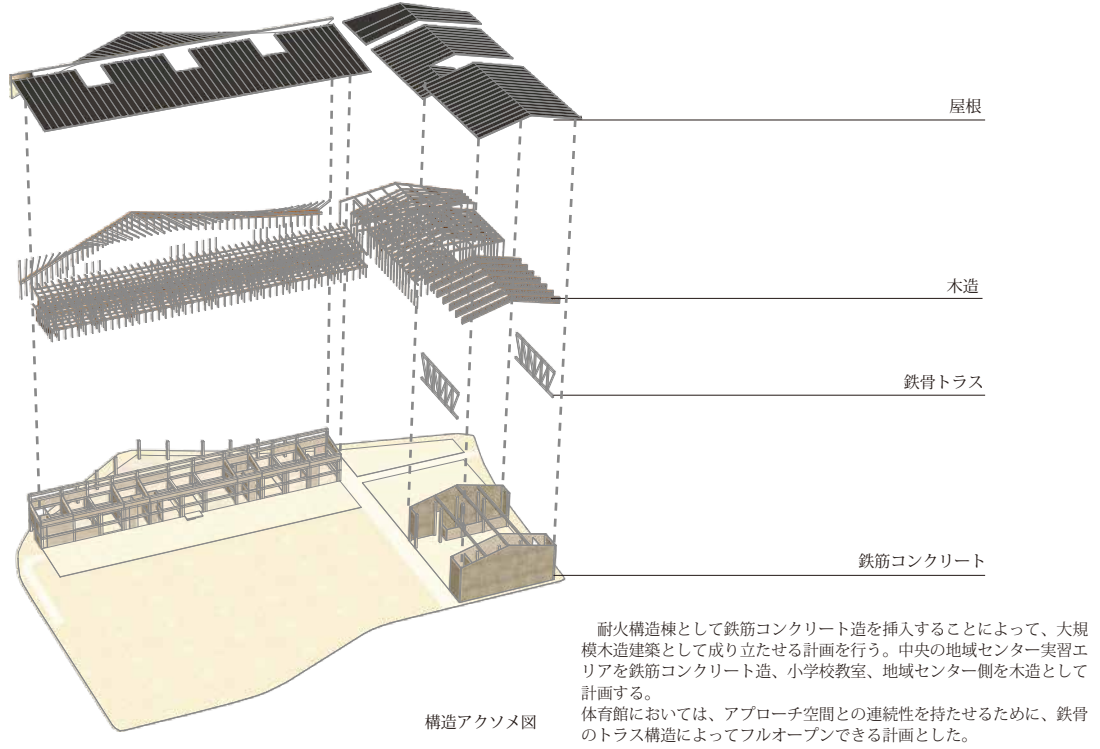
地域がセンターと小学校が共有する実習部門では、時間によって使われ方が変化する。地域の人を招いた授業等の活動においても実習部門が利用され、地域と小学生が繋がりを持つ空間となっている。また、中庭を挿入することで日常的な視線の繋がりが、実習活動の延長としても使うことができ、日常的に地域や学校の活動を可視化する役割をする。

5-4 居住性向上のためのクラスユニットとオープンスペース家具の計画



クラスルームにおいては2000mm×8000mmの昇降口と水回りを取めたスペースを挿入することで、子供たちが自由に外部や地域センターに行くことができる計画とした。また水回りがあることによって小学校のクラスルームとしての居住性の向上を図る。昇降口上部は空調設備を取めており、教室内の天井高を高くすることができる。オープンスペースには中庭に対して低学年には小上がりになった上履きを脱いで上がることのできるアルコーブを計画する。高学年には自習スペースとしてカウンター席を中庭に沿って配置する。こうした家具によって日常的に地域センター側を小学生は意識させながら学校生活を送ることができる。

5-5 構造計画



耐火構造棟として鉄筋コンクリート造を挿入することによって、大規模木造建築として成り立たせる計画を行う。中央の地域センター実習エリアを鉄筋コンクリート造、小学校教室、地域センター側を木造として計画する。体育館においては、アプローチ空間との連続性を持たせるために、鉄骨のトラス構造によってフルオープンできる計画とした。



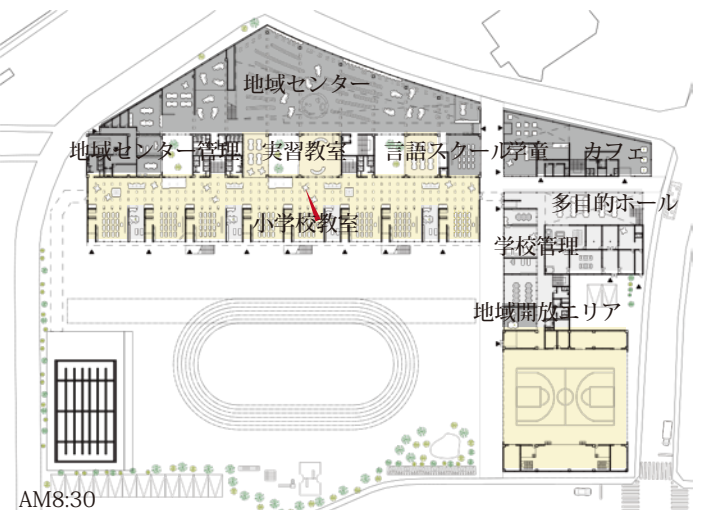
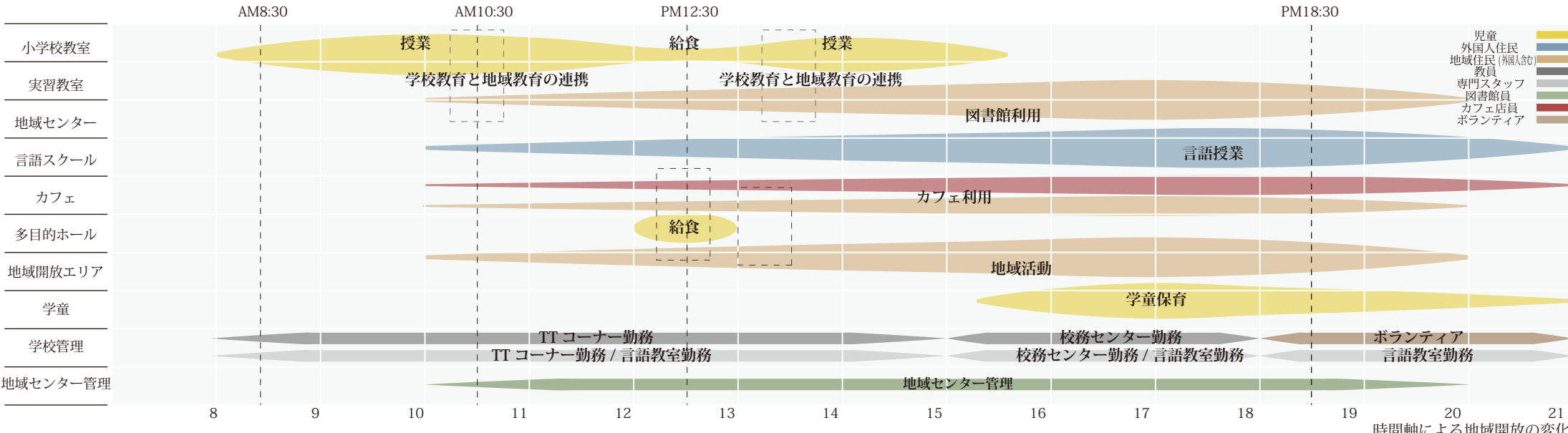
AM8:30 各教室の昇降口から小学生が登校する



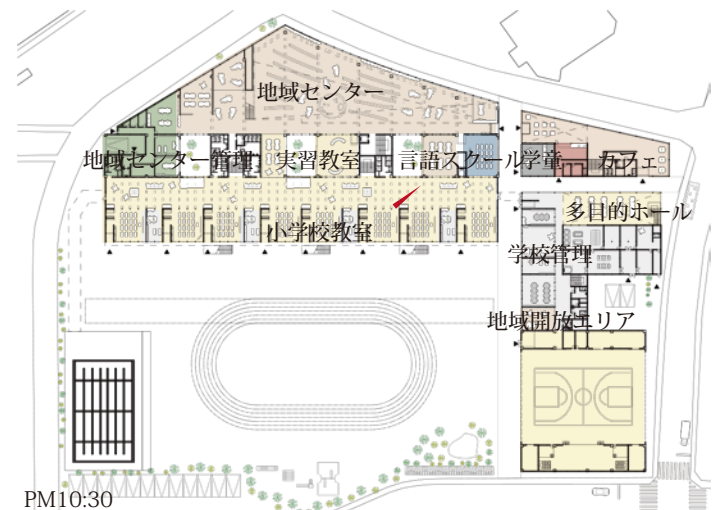
AM10:30 地域の活動と小学校の活動が混ざり合う



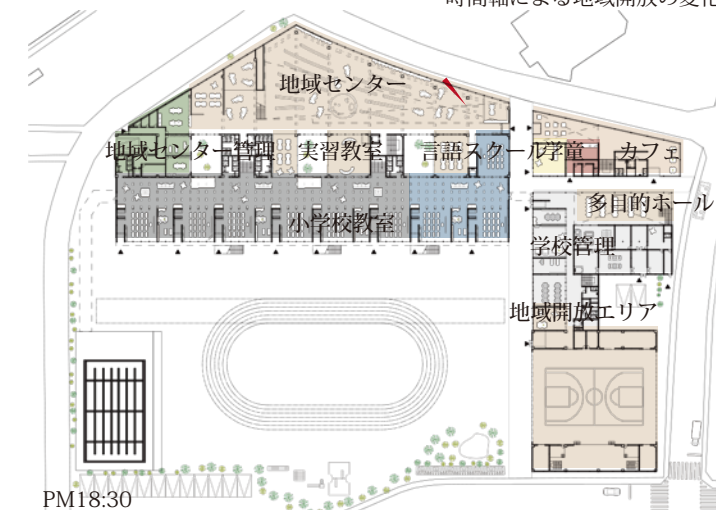
PM18:30 夕方には言語スクールに来た外国人と地域住人のコミュニティの場になる



AM8:30



PM10:30



PM18:30

時間軸による地域開放の変化